

## Ⅱ-決算

90 会計帳簿において、補助簿に該当しない帳簿は次のうちどれか。

- a) 商品有高帳
- b) 総勘定元帳
- c) 買掛金元帳
- d) 受取手形記入帳

91 仮勘定について述べた以下の説明文のうち、適切なものはどれか。

A：月次決算で費用を毎月合理的に配分するために利用される場合がある。  
B：仮受金の場合、受け取った内容が別途把握されていれば本来の勘定への振替は不要である。  
C：建設仮勘定は無形固定資産を取得する場合にも使用することがある。

- a) Aのみ
- b) B及びC
- c) A及びC
- d) A,B,Cの全て

92 月次決算を実施する目的に関する説明で最も適切な組み合わせはどれか。

A：早期に経営の状況を把握して、迅速な対策をとること  
B：年度計画の売上高、営業費、純利益を目標とした進捗管理を行うこと  
C：月々の帳簿の整理を確実に実施することにより、年次決算をより適切に行うこと

- a) A及びC
- b) A及びB
- c) B及びC
- d) A,B,Cの全て

8 月次業績管理 8.1 月次決算実施 正解：b

補助簿とは、主要簿と呼ばれる仕訳帳と総勘定元帳を補助するために用いられるもので、大きく分けて補助記入帳と補助元帳の2種類がある。

補助記入帳とは、特定の取引についてその明細を記録する帳簿をいい、現金出納帳、当座預金出納帳、小口現金出納帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売上帳及び仕入帳がある。これに対して補助元帳とは、特定の勘定又は事柄について記録を行う帳簿をいい、売掛金元帳（得意先元帳）、買掛金元帳（仕入先元帳）及び商品有高帳がある。

選択肢中、補助簿でないのは（b）であり、これが正解となる。

8 月次業績管理 8.1 月次決算実施 正解：c

仮勘定とは正式な会計処理までのつなぎとして使われる勘定で、仮受金・仮払金のように、収入支出において処理すべき勘定や金額が不明のため、一時的に使われる勘定科目をいい、年度決算時には本来の科目に振り替えなければならない。そのため、期中にそのままにしておくとも累積的に増加し、年度決算時にまとめて整理するのは非効率であり、内容が精査されていない状況を継続することはリスクがあるため、月次決算時に都度処理すべきである。一方、仮勘定はその用途として月次決算で費用を毎月合理的に配分するために利用される場合もある。

また、仮勘定のうち建設仮勘定は、有形固定資産だけではなく無形固定資産を取得する場合にも使用することがある。

したがって、正解は（c）となる。

8 月次業績管理 8.1 月次決算実施 正解：d

月次決算とは、事業年度末に行う法令による決算とは別に、主として経営管理に必要な有効な情報を提供する目的をもって、毎月の営業成績や財政状態を明らかにするために行われる決算である。月次決算は、次の様な目的をもって行われる。したがって、正解は（d）となる。

- ・ 早期に経営の現状を把握して、迅速な対策をとること
- ・ 年度計画の売上高、営業費、純利益を目標とした進捗管理を行うこと
- ・ 年度決算の利益を早期に予測し、精度の高い決算見込みをたてること
- ・ 月々の帳簿の整理を確実に実施することにより、年次決算をより適切に行うこと